



広げよう たすけあいの輪

# どりーまあ通信

● 第25号 2011年 5月発行 ●

◆特定非営利活動法人  
どりーまあサービス

〒770-0866  
徳島市末広2丁目1番80号  
TEL 088-626-3237 FAX 088-611-7035  
U R L : <http://dreamer-service.org>  
E-mail : [npo@dreamer-service.org](mailto:npo@dreamer-service.org)  
発行責任者 山口 浩志

## 無限の樹形図



理事長 山口 浩志

この度の東日本大震災による被害につきまして、心より  
お見舞い申し上げます。この未曾有の災害による犠牲の大  
きさは私たちの想像を遙かに超えるものです。同時に、福  
島原発がもたらす問題も世界中をも脅かしております。  
今私自身、この筆舌しがたい災害の中にあっても不眠不  
休で復旧や援助にあたられている方たちの姿をみるごと  
に、何か手をさしのべることができる支援はないかを考え  
ます。  
テレビ大阪で3月中旬まで放送されていた「最上の名  
医」の中で、「無限の樹形図」という言葉がでてきました。  
これは、ひとりの幼い命を助けることで、その子供が大人  
になり、結婚し、子供を産み育てることにより無限の広が  
りが生まれる。あるいは、幼い子が病気を抱えながらも賢  
明に生きる姿に触れることで、「命」の尊さを教えられる。  
すなわち、幼い命が物心両面から「無限の樹形図」を作り  
あげるといふ趣旨でした。  
震災で被害にあわれた人たちに勇氣と夢を西日本から発  
信できるよう、樹形の一角を担い、時間をかけてでもそう  
いう手をさしのべていきたいと考えます。



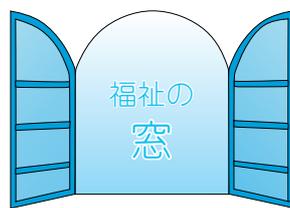
## 「新しい公共」とNPO

とくしま県民活動プラザ プランニングマネージャー 井上 雅史

NPOとはNon(非)・Profit(営利)・Organ-  
ization(団体)の頭文字N・P・Oをとった略  
語で、一般に営利を目的としない社会貢献活動  
を行う団体として捉えられています。  
また、社会貢献活動を行う団体の内、知事の  
認証をうけた法人をNPO法人といえます。  
今、NPOは、「新しい公共」の担い手とし  
て期待されています。

「新しい公共」ですが、この言葉は、鳩山前  
首相が所信表明演説において述べられ、にわか  
に注目を集めました。

「新しい公共」という言葉が意味するところ  
は、分かりにくいとよく言わ  
れますが、私は、NPOの方々  
が行っている活動、それ自体  
が「新しい公共」であると思  
います。



徳島県では、この「新しい  
公共」を根付かせ、広めるた  
めに今年度から「新しい公  
共」支援事業を行います。

「新しい公共」支援事業では、NPOの活動  
基盤整備のための支援事業など各種事業を予定  
しております。

また、NPOの活動を支援・援助する機関で  
ある「とくしま県民活動プラザ」におきまして  
も、この支援事業によりNPOの方々を支援  
し、成長と自立の促進に寄与したいと考えてお  
ります。

今後、こうしたNPOの活動が多くの県民の  
間に広がり、徳島が他県に誇れる「支え合いと  
活力のある県」へと変貌することを期待します。

八木徳夫さん & ヘルパー土井育代さん (介護福祉士)

介護 home help



に、理学療法士の有資格者だそうです。奥様とお二人で暮らされており

として42年間勤められてきた八木さんは、マッサージ師や鍼灸などの他

県立盲学校教師

「明るくてやさしいヘルパーさんに毎日感謝しています」  
(八木さん)

助を通して「夫婦学」を学ばせていただいているとのことです。

た。今担当である土井さんは、「八木さんのようなご夫妻をお手本にしたいです。」と、援助

ますが、3年前頃から買い物やこまかい所のお掃除などの面で不自由になり、たすけあい」と出会いまし

「私のお手本のような夫婦なんです」 (土井さん)

「ヘルパーさんがきてくれるのを毎日待っているんですヨ♡」 (Nさん)

Nさん & ヘルパー 三好美紀さん (歯科衛生士)

この日担当であった三好さんに関して「明るくて、何より返事がいいので朝から元気をもらっています」と大絶賛

徳島市内で長年ご商売をされておいたNさんですが、朝はどうしても体が思うように動かず悩んでいたところ、病院のワーカーさんからのご紹介でどりーまあと出会えたいきさつがあります。今は看護師とヘルパー、NP O支援などで関わらせていただいております。

「日々勉強させてもらっていますー」 (三好さん)



でした。手引きで介助される時の「イッチ、ニイ、イッチ、ニイ！」と声かけする姿はとても新人とは思えない風格でした。

ささえあい ケアマネージャー 山野亜紀子

Nさんの在宅生活のお手伝いをさせていただく中で、担当ヘルパーさんや担当看護師さんにはいつも細かいところまで相談や連絡をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんがNさんのサポーターとしてチームで同じ方向性を持ち、サービス提供できるよう努力していきます。ケアマネージャーの立場からNさんを支えるつもりが、人生の師としてNさんから教わることも多く、介護がきっかけとはいえ、この「ご縁」を大切にしていきたいと思えます。チームNさんの一員としてスタッフのみなさんにエールを贈ります。

しおりちゃんからたくさん大切なことを教えてもらってます

看護

nurse care

きっかけはお母さん同士の

絆から

5歳になっただけでなく、入浴のお世話だけ、病院での診察の時に聞いておくこととかの相談にのってもらえるのが助かると言ってくれます。

この日担当した看護師の濱崎さんも、看護師の大切な役割をしおりちゃんからたくさん教えてもらっているそうです。

お母さんのネットワークと絆には本当に感心させられます。

ちょうどしおりちゃんが大きくなるにつれてお母さんひとりでお風呂にいらたりすることに不安を感じ始めた頃だったそうです。

看護師さんがきてくれるように

弘田汐織(しおり)ちゃん&濱崎薫さん(看護師)



なっただけでなく、入浴のお世話だけ、病院での診察の時に聞いておくこととかの相談にのってもらえるのが助かると言ってくれます。

この日担当した看護師の濱崎さんも、看護師の大切な役割をしおりちゃんからたくさん教えてもらっているそうです。



さいすけ 藤田幸資さん & 濱田礼子さん(看護師)

どりーまあこどもクリスマス会

第2回目の「どりーまあこどもクリスマス会」を開きました。参加された中には、「ひさしぶり〜!」と、1年ぶりの再開に励まし合ってお母さんたちや、また昨年体調不良で参加できなかった子供さんには、「待ったたんよ〜(、)」とお声かけしていただき、あつたかい言葉がとびかう中、今回もみんな楽しい時間を過ごすことができました。



「看護師さんの存在は心強いです。」(藤田さん)

坂東俘虜収容所内にあったドイツ村で

「看護師さんの存在は心強いです。」(藤田さん)

坂東俘虜収容所内にあったドイツ村で

そうでした。訪問看護を受け始めて、約半年が経ちますが、「心強い存在です。これから

私も変わらなすにきてほしいですネ!」と言われます。

一方、看護師の浜田さんですが、公共医療機関で33年勤めて、昨年にどりーまあ訪問看護師として新たな道で活躍中です。「病院は本人だけの看護でした



が、在宅はご家族も含めての看護をする場なので、毎日勉強です。」といつも「初心」のベテランナースです。

# 「第2のふるさと」でありつづけるために——!

去る2月3日(木)、デイ利用述べ5,000人達成を記念し、津軽三味線奏者の戸村恵里さんに来て頂きました。戸村さんの奏でる津軽三味線の音色は、フロアだけでなくどりーまあ全体に広がり、普段と違った雰囲気となりました。この日の利用者様も目をうっとりさせ、戸村さんの演奏に聴きほれていました。



利用者延べ5,000人達成記念に津軽三味線でお祝い!

夢ハウス  
day service



寝たきり予防体操に励む利用者さんたち



春の訪れを待ちわびたように咲いた桜の花を一目見ようと、この日はデイの利用者様と一緒に花見に行きました。風が吹き少し寒い気温でしたが、間近で見ると桜の花びらや春の匂いに、体全体で春を感じることができました。利用者様の中には、「こんな近くで桜の花をみるのなんて何年ぶりだろう。」との喜びの声も。今後も利用者様と一緒に時を過ごし、季節を感じていきたいと思えます。



桜満開、笑顔满面のみなさん

「こういう場所は  
何回きてもええなあ」

デイサービスセンター夢ハウスでの日課の一つに、「健康体操」があります。毎日スタッフが交代で、利用者様と一緒に体操をします。いろんな話も交えながら行い、笑いと活気に満ちあふれた場になっていきます。中には、「私、こんな

んできるんですよ!」と元氣自慢をされる方も。これからも、皆様と一緒に健康について取り組んでいきたいと思えます。



# どりーまあ 家族の会 self help 発 足

平成22年12月4日  
(土)、「どりーまあ家族の会」が発足いたしました。これまで、NPO活動を始めてから、私たちスタッフとご家族の方とのつながりはできて、ご家族さん同士で互いの気持ちをわかち合う場はありませんでした。この度、そういう「どりーまあ家族の会」が発足されましたが、そこで交わされる表情や言葉からは、「多くを語らなくとも分かち合えていく」と強く感じさせてもらえる場でした。



家族の会 会長  
森浦 彰さん

この度の「東北地方太平洋沖地震」におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様やご家族の方々へ謹んでお見舞い申し上げます。

昨年の6月に「どりーまあ」と、お世話になっている家族の方々とで、「第1回家族会」をさせていた



いただきました。

その中で、介護されている家族の大変さ、つらさ、時には楽しさと、いろいろな話を皆様でさせてもらいました。話をしている中で、やはり一番共通するものが、介護されている方、介護している方、それをサポートされている方、やはり助け合いで成り立っていることがわかりました。この度の地震でも同じことだと思います。

家族会を通じてこれからも皆様と一緒に助け合っ  
て、第2回、第3回へと続けていきたいと思っております。ご協力のほど宜しくお願いいたします。



家族の会 副会長  
松野真実子さん

この度の東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。昨年立ち上げました「どりーまあ家族の会」ですが、第1回目の会には多くの方

が参加してくださいました。準備委員会で、どんな話を聞きたいかと質問があり、介護している者が困っていること、悩んでいることを同じ目線で語りあいたいとの声がありました。そこで今回はすでに介護を終えられたお二人に体験談を語っていただき、質疑応答という形にきまりました。会場で皆自分の介護に思いを重ねて、目頭を熱くしながらお話を伺いました。

そして、鶯春夫先生のユーモアたっぷりのご指導でみんなで軽い体操もしました。会場は笑い声も溢れ、その後お茶とお菓子をいただきながらなごやかな時をもつことができました。第1回目には参加されなかった方も次回にはお気軽にのぞいてみてください。お一人でお抱えている悩みやストレスをみんなで分

け合いました。少し気持ちや体が軽くなるかもしれません。そして、参加された皆様が「来てよかった」と思えるような温かいハートのお土産を持って帰れるような家族の会でありたいと思います。



効果は「健康」と「笑顔」です!!

みなさんからの「イも「転ばなくなった」、「自転車に乗れるようになった」、「血圧が安定してきた」等、効果も抜群の様子です。

## 7年目に入っても熱気ムンムン



チ・ニイ・サン」のかけ声から元気をいただきました。

## 内町教室

於：内町公民館

平成17年6月から始まった本教室は、開講第1号の教室です。7年目に入った今でもみなさん熱心に通っていただいています。まさに「継続は力なり」ですね。



## 昭和教室

於：昭和コミュニティC

開講して3年目に入る本教室ですが、昭和コミュニティセンターをお借りして週1回の実施です。参加されている方も皆さん健康づくりには前向

昭和教室は、平成20年6月から始まりました。いつも教室の皆さんから、明るさとさわやかさをいただいております。

## 仲間は宝物です!

「写真撮ってもいいですか?」とお声かけしたところ、「ほな、みんなで一一緒に撮ろう!」とお一人の方が呼びかけてくれるや否や、このような「作品」となりました。みなさん ガツッポーズキマってますヨ(´・`・´)



きに取り組まれていきます。ご感想をおうかがいしたところ、「つまずいでもたちなおって転ばなくなった」「生活にハリができた」「丈夫になっっているのが実感できる」といった喜びのお声がありました。チームワークも抜群の教室です。只今受講生募集中です。

## 小地域交流 サロン事業

### 徳島県委託事業

小地域毎の『サロン』が、介護予防事業の一役を担うと考え、平成21年より進めてきた徳島県委託事業『小地域交流サロン普及事業』も本年度が最終年度となりました。来年度以降も県内各地で自発的に『サロン』

23年度  
最終年度に  
全力投球

が立ち上がるよう事業を進めていきます。

鳴門市予防介護・多世代交流事業の一環として鳴門市長寿介護課と共催の『林崎サロン』が、平成22年11月12日(金)鳴門市林崎保育所において開所しました。

当日は地域在住者、行政関係

#### 場所

### 林崎保育所 地域交流スペース

者、鳴門市内地域包括支援センター職員、また記念講演講師として四国大学短期大学部 日開野教授をお招きし、総勢32名の盛大な開所式となりました。参加者の中には「今まで閉じこもりがちであり、最近落ち込むことが多かったのでサロンを楽しみにしている。」と話される方もおられました。

## 鳴門市にサロン設立

## いきいきこころの健康づくり事業

(徳島保健所委託)

### 『いきいきサロンサミット in とくしま』

日時：平成23年2月26日(土) 13:00~15:40  
場所：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 4階大会議室



### 県内7ヶ市町村より約100名の参加者

徳島県委託事業として平成21年度より進めております『小地域交流サロン事業』での各地域の活動の様子を報告し合うことにより、企画構成の方法やメンバーの集め方、運営の方法などを互いに情報交換しあえたり、今後のサロンを立ち上げようと考えている地

域の人たちへ啓発をしようと考えました。そのことにより、サロンの本来の目的である「閉じこもり防止」や「認知症予防」、更には「虐待防止」にも結びつけようという期待して開催しました。当日は、県内7市

### 自治体関係者からもエール

町村より約100名の参加があり、佐和先生の講演、高岡先生の健康体操、そして、サロン参加者による事例報告を通じ、それぞれが生きがいのある社会をつくることの大切さを感じるセミナーとなりました。





# 民間事業所 合同研修会

**テーマ** 認知症について  
～基礎的知識とケア～

**とき** 平成22年 8月28日 (土)

**ところ** ふれあい健康館



**講師**  
城西病院副院長  
植村 桂次先生  
(認知症サポーター医)

ケアの現場は常に「自分で考え、行動する」ことが求められています。そういう意味から、どりーまあ研修会は「基本に立ち戻る場」になっています。

認知症とは、一度発達した知能(認知機能)が何らかの原因により持続的に低下し、日常生活に支障をきたすようになった状態と定義づけられています。頭で

理解していても、家族に症状がでたら、困惑してなかなか受け入れることができない病気ではないでしょうか。

今回の研修では、認知症の記憶障害の種類や中核症状、周辺症状、ケアを行う上で必要な心構え、利用者さんに接する時の視点、接し方などを詳しく教えていただきました。特に印象深かったのは、基本的には認知症の症状は理解可能として接し、理解しようとする姿勢が大切で、介護者の細やかな観察がケアにも重要であるということでした。

現れた症状ばかりに気をとられ、その背景や本人の気持ちに目が行きとどかなくなっちはいかなかったか。もう一度考え、利用者さんの気持ちにより添った対応ができるように努力していきたいと思いました。

ヘルパーステーション  
たすけあい  
サービス提供責任者  
平土 晴美

**テーマ** 薬と副作用①  
～薬の基礎知識を学ぶ～

**とき** 平成22年 9月24日(金)

**ところ** 県民活動プラザ

**講師** 徳島大学薬学部  
阿部 真治先生

阿部先生からは、①薬の飲み方について、②副作用と相互作用について、③代表的な薬の注意点、の三点に絞って詳しく、分かり易く教えていただきました。

去る22年9月24日(金)、徳島大学病院薬学部より、阿部真治先生をお招きして、お薬のご講義をし

私たちは、服薬介助や見守り、確認など、介護業務の中で関わることも多いので、大変興味深く参加させていただきました。

その中でも、高血圧や心臓病、糖尿病のお薬などは、多くの利用者様が使用されており、また長く飲み続け



る事が多いのですが、その治療効果の裏側には副作用がある事も無視できません。今回は、その事についても具体的な事例を交えて教えていただきましたので、早速明日のサービスからやってみようと思えました。

治療を効果的かつ安全に進めていく為には、薬の名

前や効果、副作用などに興味をもち、納得して飲むことが大事だそうです。私たちも、今回得た知識を基に、今後のより良いケアにつなげていきたいと思えます。

ヘルパーステーション  
たすけあい  
サービス提供責任者  
正地 輝美

## フィジカルアセスメント研修会に参加して



どりーまあ訪問看護ステーション

湊崎 薫

平成23年1月24日（金）  
於：大阪・桃谷センター

「フィジカルアセスメント」って？と頭の中ではなマークが飛び交っていましたが、いざ、受講してみるととても気持ちの多い研修でした。

例えば聴診についてですが、胸の音を聴診器を使用して聴く、腹部の音を聴く、その音を聴くだけであれば誰でもできること。そうではなく、音を聴き、どんな音であるかを聴き分け、考察していくことが「フィジカルアセスメント」です。しかし、共通言語がないと、人それぞれ多種多様な表現になってしまいます。そこで、音のカタログ名を正しく知っていて、正しく用いることが必要不可欠になってきます。しかし、

私は聴いたそのままの音、例えば、ブーブーやヒューヒューと記載していました。そうではなく異常呼吸音の分類を知っておけば、たった5種類の表現ですむのです。呼吸音は連続性か、連続性で音は細かいのか、粗いのか、また断続性か、低調性か、高調性か。ブーブーと聞こえていた呼吸音は、連続性低調性複雑音となります。このようにブーブーと表現するのではなく、スマートにまとまります。この研修を受けさせていただき、頭の中の引き出しに、今まで聴いていた呼吸音を整理することができ、すっきりしました。また情報を的確に収集し、判断し考えていく事が必要であることを再認識した研修でした。参加させていただきありがとうございました。

## 研修レポート

## サービス提供責任者のあり方

ヘルパーステーションたすけあい

サービス提供責任者

松本 友紀



平成23年2月12日（水）～13日（木）  
於：岡山・福武ジョリーナビル

2月に岡山県へサービス提供責任者の研修に参加させていただきました。会場では、年齢や性別を問わず、主に西日本から約100名の参加者があり、それぞれに普段の現場での悩み事や困り事、不安な事などを話し合い、一緒になって

考えることができました。私自身、今まで10年間「どりーまあ」でヘルパーをしてきましたが、サ責（サービス提供責任者）という立場がどういふものなのか曖昧だった部分もありましたが、利用者さんやご家族にもあまり知られていなかった、というのが現状でした。この度の研修で改めて気づいたことは、ヘルパーは利用者さんの一番近い存在であること、またサ責が一番近い専門職であ

るということです。そのためにも、様々な能力を必要とされます。記録のチェック能力、モニタリング能力、コミュニケーション能力、連携能力等、どれも欠かせません。また、サ責は利用者さんの変化を真っ先に発見すべき立場で、悪化を予測するのも利用者さんの可能性を引き出すのも、サ責が鍵をにぎっているということ学びました。他府県から来られたサ責の方とも話をさせていただき、事業所内での様子をうかがう事もできました。とても機敏とされており、サ責がまとまっているというのが印象的で、それと同時に私はサ責としてまだまだ未熟であると痛感しました。

今回の県外研修で学んだ事を、自社のサ責仲間にも伝え、一団となってこれからも利用者さん中心のケアができる「橋渡し役」になっていきたいと思っています。

# オーストラリア 高齢者地域包括ケア研修

昨年22年11/21〜26の6日間、オーストラリア福祉研修に山口が参加してまいりましたので、ご報告いたします。今回の参加でオーストラリアの福祉に触れることで、24年の同時改正に向けて、同じ中福祉・中負担の道を進めているわが国の5年先の姿を教わりました。



《イプスウィッチ・ホスピス》訪問  
1985年、ヒルダ夫人のはたらきかけによって、イプスウィッチ市で最初に設立されたホスピスです。ここでは、ボランティアの受け入れを強化されており、活動内容も、経営に関することからケア、クリーニング、

家族ケア、募金活動に至るまで、多岐にわたっており、ボランティア教育として、週3時間の講義を8週間に加え、4日間の実習研修まであり、責任ある活動が信頼と実績を裏付けておりました。

《リバービュー・ガーデン（救世軍高齢者施設）》訪問  
広大な敷地内に、ナースングホーム（重症患者）とグループホーム（認知症）、高齢者住宅（軽症者または自立者）の複合施設です。救世軍とは、キリスト教信者の中で組織化されたオーストラリア最大の非営利団体で、

下級層への伝道の他に困窮者への救済の一環として、施設建設への寄付活動等を行っているそうです。



ここでの特徴としては、一棟につき12〜13名のグループ化したケアで、その中からコミュニティを活用したプログラムづくりを重要視していました。また、徹底したボランティア教育で育成されたマンパワーが施設運営にとって大事な役割を担っていることを知り、目から鱗状態でした。



《パプティスト 高齢者ケア施設》  
広い敷地内に、自立及び軽症高齢者が住むリタイアメントヴィレッジ（56床）やローケア（57床）と、ハイケア（48床）があり、身体・精神（認知症含む）状態に応じて各ユニットへ移り住むことができるシステムでした。

## 《在宅サービスとOZ（オージー）ケア》

オーストラリアの在宅サービス制度は、HACC（ハック・重症高齢者向けケア）とCOP（コップ・重介護者在宅生活ケアプログラム）、CACCP（地域高齢者ケアパッケージ）、EACH（イーチ・重介護高齢者対応在宅ケアプログラム）など、システム化できた中でサポートが進められて

中でもオーストラリア国内で最大級といわれている「OZケア」の研修に参加させていただきました。ここでは、在宅部門はゴールドコースト1/2をカバーし、デイレสบイト（デイサービスの呼称）では20箇所を運営しているそうです。ちなみにオーストラリア始めヨーロッパでは、介護の民間事業所は全て非営利団体だそうです。OZのセンター長さんからの「毎年の厳しい行政チェックシステムの中で、高品質サービスが維持されています。」と力強く説明される表情に自信と輝きがありました。



## どりーまあ委員会活動 ～2011年版～

委員会	委員長	副委員長
研修委員会	松本 友紀 (介護)	中野 操(看護) 米田 典世(サロン)
感染予防委員会	関本 敦子 (看護)	中野 朱(デイ) 辻本 美那(介護)
リスク管理委員会	青山 美穂 (サロン)	山口 浩子(介護) 椎野 敦子(デイ)
広報委員会	櫻木 庸平 (デイ)	棚野望起子(事務) 鳥取 克江(介護)
環境改善委員会	福本 誠司 (ケアマネ)	濱田 礼子(看護) 四宮 珠江(介護)
(新設) 内部監査委員会	木下 義治 (事務長)	湊崎 薫(看護)

## 「災害支援ナース」に参加して



どりーまあ訪問看護ステーション 関本 敦子

4/21  
4/25の5  
日間、東日  
本大震災へ

の災害支援ナースとして参加させていただきました。私たちの第13班は、医師・看護師・介護士等28名のチームでした。活動場所は宮城県石巻市の福祉避難所「遊楽館」でしたが、約110名の高齢者の方や障害をおもちの方が生活されており、私たちがの支援としては、排泄や入浴、整容、食事などの介助で、合間の時間に



は傾聴もさせていただきました。また現場では1日に一度は医療福祉関連ミーティングがあり、プライバシー保持や横の連携確保を賢明に確立しようとしております。過酷な生活の中で支援を受けておられる方々の明るさと穏やかさには、「生きる」ことの原点を教えられる毎日でした。参加させていただきありがとうございました。

## 23年度どりーまあ研修計画

		内 容
23年	4月	職業倫理～プライバシー保護と法令遵守～
	5月	〈合同〉医療セミナー～循環器疾患とリハビリ～
	6月	記録と報告～迅速な報告と適切な記録～
	7月	苦情処理と対策～クレームを恐れず正しい対応を～
	8月	〈合同〉認知症研修～認知症の治療からケアへ～
	9月	緊急時対応～災害時避難の実践～
	10月	薬と副作用～薬の基本的知識を学ぶ②～
	11月	〈合同〉感染症対策～感染予防と衛生管理～
	12月	ターミナルケア～在宅での看取りと緩和ケア～
24年	1月	在宅での栄養管理～食事の工夫～
	2月	伝達講習～県外セミナー伝達～
	3月	高齢化に伴う疾病と対策～検査データから学ぶ～

## (Information)

### 東北太平洋沖 地震義援金 募集

この度の震災に関して、「どりーまあ家族の会」様より265,868円、「どりーまあ従業員及びどりーまあ関係者一同」から131,459円、日本赤十字社徳島支部を通し、ご寄付させていただきましたことをご報告させていただきます。

義援金に際しまして、ご協力いただきました方々に対しまして、紙面をお借りして厚く感謝申し上げます。

《随時受付しています》

郵便振替

01680-9-129420

特定非営利活動法人

どりーまあサービス

## 外部セミナー参加

### 外部研修及び会議出席

平成22年

- 7/7 パーキンソン病について考える  
(於：小松島総合福祉センター、3名参加)
- 7/7 とくぎんサクセスクラブ「やわらか右脳マーケティング」  
(於：徳島グランヴィリオ、1名参加)
- 7/10～7/11  
日本ホスピス・在宅ケア研究会 in 鳥取 (1名参加)
- 7/21 NICU 長期入院児退院支援検討会議  
(於：徳島保健所、1名参加)
- 7/27 ホームヘルパー協議会第1回研修会  
(於：県総合福祉センター、6名参加)
- 7/31 四国地域福祉セミナー in 三豊 「これからの地域福祉の展望」  
(於：三豊市文化会館、3名参加)
- 8/25 いきいき心の健康づくりスキルアップ研修会  
(於：徳島保健所、6名参加)
- 8/28 NICU 長期入院児退院支援検討事例における研修会  
(於：徳島保健所、10名参加)
- 9/5 在宅ホスピスケア実践シンポ～小児がんの子供の在宅緩和ケア～  
(於：新大阪ホテル、3名参加)
- デイ運営特別セミナー  
「デイの質向上につながる新しいプログラムづくり」  
(於：大阪、1名参加)
- 9/11 居宅介護支援事業所管理者の集い  
(於：県総合福祉センター、1名参加)
- 9/26 ケアマネ初任者研修会 (於：県教育会館、1名参加)
- 9/27 とくぎんサクセスクラブ「クレーム対応力強化セミナー」  
(於：とくぎんトモニプラザ、2名参加)
- 10/10 ターミナルケア研修 (於：徳島大学病院、5名参加)
- 10/18 徳島県市町村介護予防事業担当者研修会事例発表  
(於：県職員会館、1名参加)
- 10/21 「精神障がい者の地域移行・地域支援事業」研修会  
(徳島合同庁舎、2名参加)

- 10/26 あわぎんビジネスカレッジ  
「CS 経営顧客満足で小さな奇跡を起こす！」  
(於：油屋美馬館、2名参加)
- 10/30～10/31  
小規模多機能ケア全国セミナー in 広島  
(於：県立広島大学、2名参加)
- 11/12 鳴門市サロン開所式 (於：鳴門市林崎保育所、4名参加)  
医療相談支援センター講習会「肝臓癌の外科的治療」  
(於：日赤病院、2名参加)
- 11/14 「今協同を拓く～2010全国協同集会 in 四国～」シンポジウム参加  
(於：高松市、1名参加)
- 11/30 がん診療連携協議会連絡会議 (於：徳島大学病院、1名参加)
- 12/3 NICU 長期入院児退院支援検討会議  
(於：徳島保健所、1名参加)
- 12/9 とくぎんサクセスクラブセミナー「時間管理の基本」  
(於：徳銀研修会館、1名参加)
- 12/10 あわぎんビジネスカレッジ「雇用管理セミナー」  
(於：ホテルクレメント徳島)
- 12/17 ストレスマネジメント研修会  
～職場でのストレス解決に向けての取り組み方～  
(於：あわぎんホール、1名参加)
- 12/19 とくしま NPO フォーラム (於：徳島大学工学部棟、15名参加)
- 平成23年
- 1/28 マザアス新宿  
(小規模特養&小規模多機能&GH 複合施設見学、1名参加)
- 2/18 高次脳機能障害家族会交流セミナー  
(於：西部県民局三好庁舎、1名参加)
- 2/20 NPO 自立支援塾講義 (於：県民活動プラザ、1名参加)
- 3/5 とくしま県民活動プラザ南サテライトオフィスパネルディスカッション参加  
(1名参加)
- 3/6 在宅ホスピス実践シンポ「スピリチュアルチェック」  
(於：新大阪ホテル、1名参加)
- 3/9 いきいきこころの健康づくり事業シンポジウム  
(於：徳島東急イン、2名参加)  
地域自殺対策連絡会議 (於：徳島東急イン、2名参加)

## 活動報告

### 内部研修及び内部会議

平成22年

- 7/16 「事故発生時の緊急対応～どりーまあヒヤリ・ハット事例から学ぶ～」  
(於：県民活動プラザ、  
看護・介護・デイ・居宅部門より事例報告)
- 8/28 民間事業所合同研修  
「認知症の医学的理解～基本的知識とケアを中心として～」  
(於：ふれあい健康館、講師：植村桂次先生)
- 9/24 「薬と副作用～薬の基礎知識を学ぶ～」  
(於：県民活動プラザ、講師：阿部真治先生)
- 11/17 「口腔ケアと嚥下体操」  
(於：県民活動プラザ、講師：平松満紀美先生)
- 11/5 訪問看護研修「呼吸リハビリ」  
(於：どりーまあデイホール、講師：平野康之先生)
- 12/15 「福祉用具の有効活用方法」  
(於：県総合福祉センター、講師：鶯春夫先生)

平成23年

- 1/20 「年金制度の基礎知識」  
(於：どりーまあデイホール、講師：土橋秀美先生)
- 3/25 「県外研修参加伝達講習」  
(於：どりーまあデイホール、発表：看護1名、介護2名)

### その他

平成22年

- 12/4 「第1回どりーまあ家族の会」(於：県総合福祉センター)
- 平成23年
- 2/3 複合施設「高専質“レスポワール”&小規模多機能ケア“夢ガーデン”  
地鎮祭
- 2/26 「小地域交流サロンサミット in 徳島」(於：あわぎんホール)
- 2/28 県長寿介護課実地指導  
(訪問介護、訪問看護、通所介護、居宅支援事業所、  
管理部門等)
- 3/14 「情報の公表」調査